

英国でラグビーワールドカップ 2015 (RWC2015)が開催

1823 年、英国中部の町ラグビーの有名私立学校ラグビー校で、サッカーのゲーム中に突然プレイしていたウェブ・エリス少年がサッカーボールを手で抱えて走り出しのがラグビー発祥のきっかけとされています。そのラグビーワールドカップ (RWC) 2015 (以下、RWC2015) が昨夜ロンドン郊外のラグビーの聖地トウイッケナムスタジアムでイングランド対フィジ戦で開催の幕が切って落とされ、イングランドが初戦を制しています。

開催国英国ではラグビー母国の威信をかけ、聖地 8 万人収容のトウイッケナムスタジアム (ロンドン)、サッカーの聖地 9 万人収容のウエンプレススタジアム (ロンドン)、8 万人から 5 万人収容に縮小されたオリピックスタジアム (ロンドン) の他に主要都市 10 ヶ所の既存の大規模スタジアムが準備されています。

RWC の第一回目は比較的新しく 1987 年にニュージーランドで開催されました。以下 4 年毎に開催され今年が 8 回目となります。英国での開催は実は 1991 年、1999 年 (ウエールズ)、今回と三度目となります。20 の出場国 (但し、歴史的ないきさつで英国からイングランド、ウエールズ、スコットランドの三カ国が出場するのは、フェアプレー精神を重んじる英国発祥ののスポーツとしては、少しずるい感じがして仕方ありません・・・) が 5 カ国毎の 4 つのプールと呼ばれるグループに別れ、それぞれのプールでリーグ戦が行われ上位 2 カ国が決勝トーナメントに出場し、試合はサッカーワールドカップやオリピックよりも長い 6 週間にわたり行われます。優勝トロフィーは歴史的なラグビー発祥のきっかけを作ったウェブ・エリス少年にちなんでウェブ・エリス・カップと呼ばれています。

さて世界ランク 13 位の日本はプール B グループで出場、3 位の南アフリカ、12 位のサモア、10 位のスコットランド、15 位のアメリカとリーグ戦を行います。ちなみに世界ランク 1 位はニュージーランド、2 位はオーストラリア、3 位が南アフリカ、4 位がイングランドとなっています。

ラグビーはかつての大英帝国時代の植民地の国々を中心に世界的に普及しているにもかかわらず、国によってはマイナーなスポーツから抜け出していません。このため、RWC2015 の全世界向け放送権を獲得した英国の民放 ITV は、少しでもラグビーファンを増やせればと考え試合前に簡単なルールの説明を行っている様です。日本でも、野球やサッカーに比べマイナーなスポーツと思われそうですが、日本での RWC2019 のメインスタジアムとなっていた新国立競技場の建設が白紙撤回され開催が危ぶまれ、一躍脚光を浴びたラグビーに対する

国民の認知が一気に進んだので、これを機会にラグビーのメジャースポーツへの昇格を期待したいです。

ところで嬉しいことに、今日の午後英国南部ブライトンで行われた日本対南アフリカ戦で、なんと優勝候補で過去に2回の優勝国であり世界ランク3位の南アフリカを34-32で破る大金星を挙げました。日本は過去7回RWCに出場していますが、これまで一度も決勝トーナメントに出場しておらず、これからの対スコットランド、サモア、アメリカ戦が楽しみになりました。**ガンバレNIPPON！**（了）



初戦で強豪南アフリカを破り喜びの日本チーム（ITV Home Page より）



大喜びの日本人応援団（Daily Telegraph Home Page より）